

令和5年度 保育者の基本姿勢自己点検表 (自己評価)

宗教学人 浄徳寺 梅の花保育園

3 性別、障害の有無、国籍などにかかわらず、互いに認め合い、共生できる人間としての感性が育つように努める。

援助の必要な子どもも増えてきているので、全員に対して同じ対応をするのではなく、一人ひとりに合わせた援助を大切にする。それぞれの良い所を伸ばせるように、プラスの声掛けを心掛ける。

ハーフの方も園には在園しており、マナーの違い等もあるが保護者の方と話をしながら日本でのマナーも伝えていけるようにする。

「保育所内だけでなく、様々な人と出会う機会を大切にしていますか」の問いには、いいえ。の職員が多かった。コロナの影響で外部との繋がりが薄れてしまい、近所の小学校には年に数回行ったり、他の保育園との交流はあるが地域の方々との交流はないので、今後、行事のお知らせをしたり交流を増やしていきたいと思う。

4 性差や性別による固定的な役割分業意識を植え付けないようにする。

保育の中で、「男の子だから。女の子だから」という対応はしていないが、子ども達を複数で呼んだり、並ぶときに、「女の子。男の子」と性別で呼ぶことはあるので、避けるようにした方が良いのでは。という話にはなったが、プールの着替えや身体測定で服を脱ぐ時に、今までは男女関係なく着替えをしていたが、プライベートゾーンの大切さに改めて気を付けて保育をしていくなかで、着替えも男女で見えないようにした方が良いのか、でも男女別に分けるのはどうなのか。と言う問題点が上がった。他の保育園に子どもを預けている職員もいるので、他園の案も参考にしながら、対策を考えていきたい。今後も保育を進めていく中で、今までは気にならなかった事が問題に上がってくることもあると思うので、その都度、職員間で話し合っていきたい。